

(様式2)

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	大平 英樹 (おおひら ひでき)	所属	名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻心理学講座
研究集会等名称	社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数(会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 46名(うち認定心理士5名) 非会員 39名(うち認定心理士0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>【研究集会】 目的：精神神経内分泌免疫学の知識及び技術の普及と共有化を図るとともに、研究者間の交流を深めることで研究分野の発展を目指すことを目的とする。また、若手研究者を積極的に発表者とする事で若手研究者の育成に努める。 内容：平成21年6月、平成22年1月の2回研究集会を開催した。平成21年6月の研究集会は第10回記念として記念シンポジウム2題と3題の研究発表が行われた。また、平成22年1月の第11回研究集会では、1題の特別講演と3題の研究が企画された。これらの研究集会を通して本研究領域における基礎・応用研究、さらには周辺領域の研究発表に関して現状と今後の課題について議論した。 成果：本研究領域における現状と問題点について議論することで今後の問題点が明確化された。具体的には、今後の研究領域における分析技術の共有と共同研究を行うことが問題点であると議論された。また、これらの問題点について研究者間で議論することで、分析技術の方法論や共同研究を行う方法についての共通認識を持つことが出来た。さらに、第10回記念シンポジウムにおいては研究領域全体としてどのように発展するべきかについて議論することで、今後の研究会の方針が明確化された。</p> <p>第10回研究集会 日程：平成21年6月6日(土) 場所：大阪体育大学 プログラム：(下記)</p>		

#### 第10回記念シンポジウム

演題1 大平 英樹 (名古屋大学大学院環境学研究科)

『PNEI研究会のこれまでとこれから』

演題2 井澤 修平 (独立行政法人 労働安全衛生総合研究所)

『PNEI研究の今までとこれから—自身の研究活動を振り返りながら—』

#### 研究発表

演題1 城月 健太郎 (早稲田大学大学院人間科学研究科・日本学術振興会)

『社会不安傾向とコルチゾール反応の関連』

演題2 植田 直也 他 (大阪人間科学大学大学院人間科学研究科)

『生化学指標を用いた15min暗算課題とリラクセーション効果の分析』

演題3 菅生 貴之 (大阪体育大学体育学部)

『心血管系自律神経機能および内分泌・免疫機能を指標とした競技者のストレス状態評価の研究』

#### 第11回研究集会

日程：平成22年1月9日(土)

場所：久留米大学

プログラム：(下記)

特別講演 澤田幸展 (札幌医科大学)

『持ち越しは、曲線下面積と関わる回復性指標にいかなる効果をもたらすか？心臓血管パラメータを用いた理論的および実験的検討』

#### 研究発表

演題1 矢島潤平 (別府大学文学部)

『起床時コルチゾール反応を用いたストレス研究』

演題2 山川香織 (名古屋大学大学院環境学研究科)

『疾病反応による意思決定の変容—脳機能における炎症性サイトカインの影響—』

演題3 井澤修平 (独)労働安全衛生総合研究所)

『長期的ストレスが副腎皮質ホルモン分泌に与える影響—2週間の幼稚園実習における検討—』

#### 【日本心理学会第73回大会：ワークショップ】

日程：平成21年8月27日

場所：立教大学

テーマ：精神神経内分泌免疫学におけるサイトカイン—心と身体の情報伝達メカニズム—

司会者：木村健太 東京大学総合文化研究科・日本学術振興会

話題提供者：津田 彰 久留米大学

関山 敦生 大阪市立大学

山川 香織 名古屋大学

指定討論者：大平 英樹 名古屋大学

成果：サイトカインという世界的に研究数が増加している最新の領域について話題提供・指定討論をいただくことで最新の知見を整理することができ、何故サイトカインという物質が本研究領域において重要であるのかについてフロアも含めて理解を深めることができた。